

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

前半

賛美；0：13：35.90迄

さあ、今日も心を落ち着けて、じっくりいきましょう。

今はセミナー本のパート3をやっています。“「神の国」と「再臨の教え」”という範疇に、先月からここに入っています。「神の国って、なあーに？」という、それが、どうでしょう、皆さんの内側で、腑におちていますか？「神の国」って、いうものを、どう、消化していますでしょうか。勿論、パート3に至るまでに、「神の国」ということを探るために、これまで、時間をかけてお話してきたことが、土台になっていますので、ここだけ、スポッと、聞いても深まりが浅いかなと思います。セミナー本に入るまでに、「創世記の学び」からの土台があり、「主との一致」という、「我々との関係とは、どういうものですか？」というところが、腑に落ちたからこそ、「神の国」のことが分かる。というところからなっています。ですから、どうぞ、振り返ってみて頂けたらと、思います。

それで、振り返るために、ウェブ上で、ホームページの形になっています。5分、10分のユーチューブではないですから、長い時間になりますから、よっぽど根性入れて、気持ち据えて、振り返らないといけませんから、なかなか、思いますけれど、でも、それなりにしっかり聞こうと、飲み込もうとしようと思う人には、有益かと思えます。で、いちいちホームページを開けなくてもよいように、このキングダムセミナーのlineのノートに張り付けてありますので、そこを開いて、アーカイブをクリックしてみてください。我々の本棚となっていますので、是非、活用してみてください。

ハイ、今までのところを振り返ってきましたけれども、どうぞ、新しく次から次へと、聞いて聞いてと言っても、聞いた瞬間から、前回聞いたものが、抜けていってしまいますから、一つ、一つ、念入りに食べながら、いかれる方が、良いかと思えます。

パート2の「主との一致」のところ、53ページ、“この啓示の根柢にあるもの”のところから、神様が、我々人類を、人々を、どう扱っておられるのかというのが、分かります。「集合人格」という、捉え方。「いやいや、私は、自分一人で生きているから、そんな、他の人は関係ないです。」と思う方もいらっしゃるでしょう。それはその人の勝手ですけど、我々は共同人格の共同体の中に置かれているという、事実、それは、聖書から、消しようがないんです。 なので、私やあなたの集合体の中の誰か一人の前進が、他の人の前進になります。そうやって、前進してきました。

それから、パート3に入って、“「神の福音とは、何ですか」”のところ、マタイの福音書では、「天の国」と、書いてあるそれは、「神の国」のことだと、学びました。「イエス・キリスト」についての福音というのは、勿論、中心なんですけれど、だけど、我々は、新約聖書を読んでいて、「神の国」って、そんなに大きなウェイトでしたか？新約聖書の中では、60回近く、「神の国」ということばが、使われているんです。ということは、イエス様の周りにいる人達は、「神の国」と言われたら、それで、ずしっと来たわけですよ。それ程、「神の国」と、言うのが、大テーマだったんです。その「神の国」って、どんなものかという事について、福音書の中でイエス様が、解き明かされてきたわけです。「神の国が、近づいたんだよ。」(マタイ4：23)と、言いに来たんでしょ。「神の国の福音」を、イエス・キリストが、もたらしたんです。

でも、なんで、福音書の中でイエス様が「神の国」について、改めて言わなければならなかったかということ、それまでの人、その当時の人達が、「神の国」というのを、イエス様が思うほどに正しく理解していなかったから

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

でしょう。そして、イエス様の後の使徒たちも、「神の国とイエス・キリストのことを、宣べ伝えた」と、わざわざ、並行して、書いてあるくらいです。0:23:47.99

それで今日は、聖書を開いて、確認していきます。マタイによる福音書13章を開いてみて下さい。

13章全体を、目がぱっちり、元気なうちに読んでいきましょう。(笑) いいですか、ここで、イエス様がたとえ話を繰り返しておられます。今迄、このたとえ話を、何回も聞いたり読んだりしてこられて、「ああ、もう分かっているよ」ということだと思うんですけども・・・、結構、イエス様が強弱付けて、真剣に話しておられるので、ちょっと、見てみましょう。25:23.90

13章1節、その日、イエスは家を出て、湖のほとりにすわっておられた。2節すると、大勢の群衆がみもとに集まったので、イエスは船に移って腰を下ろされた。それで群衆はみな浜に立っていた。3節イエスは多くのことを、彼らにたとえで話して聞かされた。それで、ここで有名な種まく人の話が始まります。この内容は、もう皆さん、よくご存じですよ。

で、その話の後に、9節「耳のあるものは聞きなさい。」と、何でこんなこと言うの？無駄にみんな聞いてなかったから？(笑) ここね、こういう言葉が、後でまたもう一度、43節に出て来るんです。ギリシャ語の原文で言えばね、「耳を持っているものは、聞け」ということなんだけど、この「聞け」ということばが2回繰り返されているように、強調されているんです。いい？「耳のあるものは、しっかり聞けよ」って、いう感じ。「イエス様って、くどいね。」と、思うかも分かんないけど、こういうところに聖書を読みながら、「うん？」と、心を置いておくべきなんです。

その後で、弟子たちが案の定、10節イエスに「なぜ彼らにたとえでお話になったのですか。」11節イエスは、答えて言われた。あなたがたは、天の御国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていません。というのは、持っている者はさらに与えられて豊かになり、持たない者は、持っているものまでも取り上げられてしまうからです。13節わたしが彼らにたとえで話すのは、彼らは、見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないからです。だから、私達、これを読んで、「彼ら馬鹿だな、私、判っているのに」と、思ったら、「ちょっと待てよ」と、思わないといけない。自分もそうかもしれない。自分も見ているが、自分も見ないかもしれない。聞いてはいるが、自分も聞かず、悟ってないかもしれない。ここで、イザヤ書のことばを引用されて、もう一度、しっかり、念を押されています。こういう、聖書の「くどいな」と、思うところに、我々は、目を留めないといけない。「この書き方って？」と。

そして、18節ですから、種まきのたとえを聞きなさい。19節御国のことばを聞いても悟らないと、悪いものが来て、その人の心に蒔かれた者を奪って行きます。道ばたに蒔かれるとは、このような人のことです。だから、生半可に聞くんだったら、悪いものが来て、その心を奪って行くだけです。もう、その人の心というのは、悪いものが、よって、たかって奪うために、「さあ、もってけ、泥棒」の世界です。そういう、「もってけ、泥棒」の店になっていいんですか？あなたは。

20節岩地に蒔かれるとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人の事です。21節しかし、自分の内に根がないため、しばらくの間そうするだけで、みことばのために困難や迫害起こると、すぐにつまづいてしまいます。22節また、いばらの中に蒔かれるとは、みことばを聞くが、この世の心づかいと、富の惑わしとが、みことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。23節ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

実を結びます。」たとえ話の初めに「御国のことばを聞くあなたの心」を問うておられる。あなたの心が御国のことばを聞くにふさわしいのか、準備が出来ているのか、ということ、を、問うているんです。私たちは自分の状態をほっといて、やって来る話やメッセージや読んだことを、「ああ、これ面白いな、面白くないな」と、自分中心に判断しますが、自分が今、受け入れられる準備が出来ている分だけ、我々は悟ることができるわけです。

そして、24節「天の御国は、こういう人にたとえることができます。ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。25節ところが、人々の眠っている間に、彼の敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて行った。26節麦が芽生え、やがて実ったとき、毒麦も現れた。27節それで、その家の主人のしもべたちが来て言った。『ご主人。畑には良い麦を蒔かれたのではありませんか。どうして、毒麦が出たのでしょうか。』28節主人は言った。『敵のやったことです。』すると、しもべたちは言った。『では、私たちが行って、それを抜き集めましょうか。』29節だが、主人は言った。『いやいや。毒麦を抜き集めるうちに、麦もいっしょに抜き集めるうちに、麦もいっしょに抜き取るかもしれない。30節だから、収穫まで、両方とも育つままにしておきなさい。収穫の時期になったら、私は狩る人たちに、まず、毒麦を集め、焼くために束にしなさい。麦の方は、集めて私たちの倉に納めなさい、と言いましょ。』この話の中で、天の国は、どこなんですか？天の国は、こういう畑のことですとは、言ってなくて、天の御国はこういう「人」にたとえることができると言っている。人々の眠っている間に、敵が来るんだけど、その話の起点は、自分の畑に良い種を蒔いた「人」なんです。良い種を蒔いた「人」は、「天の国だ」と、言っている。その人が良い種を蒔いたけど、敵がやって来て、毒麦を蒔いた。時がたって、毒麦が出て来た。主人は、誰がやったか、その人を知っている。敵がやったんだと。しもべたちは、「よっしゃ、私たちはそれを抜き集めてしまいましょ。」って言うアイデアを出して、勇み足。勇んでいこうとしたんです。

だが、主人は、「いやいや、待て、待て」と、「両方とも、育つままにしておけ」と。「収穫の時期になったら、狩る人たちに毒麦を集めさせよう。」と。「焼くために、束にせよ。」「麦の方は、集めて私たちの倉に納めなさい。」と言うでしょう。ここで、「この人」の何がポイントなのですか？「この人」とは、御国の種を蒔く、神のことばを蒔く人。そこには邪魔が入り、その間違いも入る、いろいろあるんだけど、収穫まで慌てて取るな。」と言っている。麦が実ったら、ハッキリ、毒か本物か、分かるから。それまで待て。」と言っている。「なんで神様、こんな状態まで、ほっとくんですか。」と、思うことがあるけれど、「天の御国の「主人」は、そういう人だよ。」と言っている。だから、これを読んで、悟るべきことは、何でしょう。36：48.49

「毒麦」というのは、・・・皆さん、私、百姓の息子なので、この毒麦を勇んで取りたいって、良く分かります。この僕たちの言いたい気持ち、良く分かるんです。麦が大きくなってきたらね、中に黒い穂が目立ってくるんです。別に、毒だとは思わないんだけど、目立つんです。だから、私たち小学生のころ、畑で手伝いしてる時に、父親がね、——子供頃、あれを大人たちは、「黒べ」って、言ってたんですけど——、「今年は、黒べができたな〜」って、言うもんですから、私、父親にね、「なにー、この黒べ、こればかり、取って来る」って、ぱーっと、走ろうとすると、父親が、それを見て、「やめとけ、やめとけ、切りがないから」って、「ほっとけ」と、これと同じことを言うわけです。それでも、「取ってくるー」と言って取ってくると、「収穫して、脱穀した中にそれが入るじゃないか」って、父親は「邪魔だから、いいから」というんだけど、他のおじさんやら、おばさんやらは、「取って来るなら、取って周れ」という。そういう大人もいるわけだから、「取って周るわー」と言って、ぐるぐる、ぐるぐる、周った覚えがあります。で、後で、大人になって、これを読んだ時、「収穫するまで、ほっとけ」と、「その時に集める」と、言っているのが、目に浮かんで、やっぱり・・・と、思うわけです。

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

麦の若い時には、何が黒いのか、分かんないんです。ほんとに実って、脱穀近くになって、借り入れ間近になって、やっと、分かる。だからその時に、「集めればいいんだ。分ければいいんだ。」と言っているんです。そうでしょ。だから、自分の思いで、「うわー、あの人おかしいわ」「じゃあ、こっちの人もおかしいわ。」「自分も、もしかしたら・・・。」と、より分けようとするんでしょうけど、良い麦は、良い麦として、育つままに育てばいい。あらかじめ、「ああだ、こうだ」って、言ってね。「引っこ抜いたり、つぶしたりしなくていい。」この畑の「種を蒔く人」の気持ちがわかる。その方が、ハッキリ、間違いなく、選べるわけでしょ。0：40：18.30

31節にまた別のたとえを彼らに示して言われた。天の御国はからし種のようなものだと。それを取って畑に蒔くと、32節どんな種よりも小さいが、生長すると、どの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て、その枝に巣を作るほどの木になります。天の御国はからし種のように、ぱっと見て、「どこにあるのよ。」というくらい小さいものです。でも、それが成長していくのです。どの野菜よりも大きくなり、空の鳥が巣を作るほどに大きな木になるのだと、「天の御国は、初めはあるかないか分かんないように小さいけれど、成長していくのですよ」と言っている。ここにウェイトがあります。41：29.78

次に33節イエスは、また別のたとえを話された。「天の御国は、パン種のようなものです。これも、パン種というほんの少量のものを、三トンの粉の中に入れて、全体が膨らんで来ます。」ここで、天の御国は、しっかり膨らんで生長していくものなんですよ。」という「そのプロセスが含まれている」と、言っておられる。だから、そこには、一つの時間が必要でしょ。時が必要でしょ。パン種が入ったからと言って、からし種のようなものを蒔いたからって、あっという間に、大きくなるわけがない。そこには、時が必要だし、・・・だけど、確実に大きくなっていくもんですよ。」と言われている。・・・だから、我々の内に神の国の言葉が、蒔かれたとしたら、時を経て、自分が変わってきています。自分が大きくなり、膨らんで、変化が見られます。←———これ、基本的なことですからね。43：54.10

そしてまた次、34節の終わりから たとえを使わずには何もお話にならなかった。35節それは、預言者を通して言われた事が成就するためであった。「私は例え話をもって、口を開き、世の初めから隠されていることどもを物語ろう。」偉いことになってきますよ。このたとえ話の中に「世の初めから、隠されていることが、あるんだよ」と、いうことを言っている。「簡単なものじゃあないな」と、いうところになります。36節、——弟子たちがみもとに来て「畑の毒麦のところを、(イエス様、)説明してもらえませんか。」と言った。そう言われると、良く分かんないから。37節イエスは答えてこう言われた。「良い種を蒔く者は、人の子です。38節毒麦を蒔いた敵は、あくまであり、収穫とは、この世の終わりのことです。そして、刈り手とは、御使いたちのことです。40節ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、この世の終わりにもそのようになります。41節人の子はその御使いたちを遣わします。彼らは、つまずきを与える者や不法を行う者たちをみな、御国から取り集めて、42節火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ぎしりするのです。はい、ここでね、翻訳というのは、既に解釈が含まれています。私、前に言った事があるんですけど、この39節の「毒麦を蒔いた敵は、悪魔であり、収穫とはこの世の終わりのことです」という箇所、皆さんの翻訳もそうなっていますか？「世の終わり」ってなってる？おそらくそう？で、ここに、新改訳の人には、*印があります。その注釈欄外には、あるいは、「総仕上げ」と、書いてあります。

ここで、こういうたとえ話を、さらっと読んだ時に、私達、多くの人の心には「ああ、終末の時代はこうなるんだ」ということを想定します。頭に、もう出来上がった終末論があるからね。ところがね、この「終わり」っ

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

て言葉には、「終わり」は終わりでも、いくつか種類があって、この「終わり」って言葉には、「仕上げる」「完成する」、この今まで、いろんな準備段階があって、徐々に、徐々に、組み立てていって、「総仕上げ、完成される」という、そのプロセスの流れが、表現されたことばなんです。だから単なる「はい、ここで終わり」という、「チョコキンと、ちょん切る終わり」というのではないんです。だから、他の箇所でも、このことばが、「完全にされた」とか、「完成された」というふうに、訳されているところがあります。40節の「この世の終わり」というのもそれです。一緒です。48：54.82

だから、41節の「人の子もその御使いたちを遣わします。彼らは、つまずきを与える者や不法を行う者たちをみな、御国から取り集めて、」というこのことばも、・・・いい？ 所謂、「終末論」というものに、頭を占拠されていたら、「世の終末の極致にそうなりますよと、イエス様が言いたいんだ」と、解釈してしまう。だけど、ここで言うのは、41節になんて書いてあるかという、つまずきを与える者や不法を行う者たちをみなを、どこから、集めると書いてありますか？ 「御国から取り集める」と、書いてある。「じゃあ、世の終わりに、キリストが再臨されてから、御国が始まるのじゃあないのか。御国って、どこからよ。」と、いう疑問が湧いて来る。この毒麦が蒔かれて、良い麦も蒔かれて、二つのものがわじゃわじゃと、生長してくる。そうしたら、このすったもんだの中を、「御国」と言っているのか、「神の国というものの概念」をこの中から、しっかり受け取らないと、いけません。51：05.46

そして、43節を見て下さい。そのとき、正しい者たちは、彼らの父の御国で太陽のように輝きます。耳のあるものは、聞きなさい。「聞けよ」と、言っている。でね、ここで問題になるのは、「そのとき」と、いうことばなんです。この「そのとき」というのは、「御国から、毒麦を取り集めて、火の燃える炉に投げ込んで、彼らは、そこで泣いて歯ぎしりをした。」「裁きが終わった。」その「後で」という時が、「そのとき」なのか、と、いうふうに、思ってしまう。だけど、「そのとき」というところも、物凄く議論のあった所で、これ、原文のギリシャ語から言うと、「そのとき」「at that time」なんだから、「火の燃える炉に投げ込まれる」「毒麦を集めて投げ込まれる」と、「その同時に」っていう意味合いの言葉が、使われている。52：36.15

ですから、「天の御国で、太陽のように輝くんだ」、「裁きが終わって、輝くんだ」じゃあなくて、片一方は、「取り集められて炉に投げ込まれる」、片一方は、「太陽のように輝いている」という、その対象の姿が、現われている。現わされている。ですから、皆さん、もし、良い麦を蒔いたけど、良い麦がそんなに育たなかった。毒麦も育てて来たけど、なかなか良い麦が育ってこなかったら、どうしますか？ 良い麦の成長が、止まっているんだしたら、そうしたら、良い麦に対して、良い麦の生長が促進されて、「実る」まで、待つでしょう。「良い麦が現れ出て、成熟して、完成した」ということが、「毒麦を集める」「束にして、投げ込もうということになる」、そのきっかけになるわけでしょ。ですから、それは、終末論という概念の中で。神様は、世に裁きをもたらすことになるでしょう。けどね、それは、良い麦の聖徒たちが、成熟してきたから、出来ることです。ですから、神の民、キリストの聖徒たちが、成熟するということが、裁きをもたらし、患難をもたらし、この世を困難なものにしていくということにも、通じるわけです。55：10.56

神様が、勝手に「はい、何年の何月この日に、わたし、決めた。決めているけど、わたし、誰にも言わない」という、神様はそういうお方。安易に言わないでしょう。それは、なぜですか。良い麦のあなたたちが、神の御国の中で、成熟されるのを待っておられる。もっと言えば、キリストの体が出来て、成熟して、頭をキリストとして、立ち上がることを待っておられる。私たちは、神様に何にも当てにされず、救われた」と

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

いう、受動系のままで、あと、神様がやってくれるんだから、私たちは、じっと感謝して耐えて喜んでいればいいんですか？ そうなんだけど、私達が、まだまだ受け取り、成熟する神の働きを共に遂行できるまでに、キリストの体になることを、神様は待っておられる。キリストの体の成長こそが、完成こそが、この世に裁きをもたらすことになるんです。

その裁きは、我々が、クリスチャンが、「あいつ憎たらしかったから、迫害しよったから、怒って、しっぺ返しのために、仕返しのために裁くんだ」という、そんなものじゃあないですよ。勿論、分かっておられるでしょうけれどね。神の愛と慈愛と忍耐とを胸にしたキリストの体の成熟、神の心と一つになって、我々は前進するという、そのことの中で、裁きが進行されていっているんです。主の裁きにおいて、関係ないことじゃあないんです。

ですから、これ、安易に深く「神との一致」、所謂ここで言う、「相互内在の奥義」を感じ取らないで、単に「おお、俺たちは、太陽のように選ばれているんだ、太陽のように輝くんだよ」と、取られてしまうんだったら、逆に罪悪でしょう。そんなもん。だから、ここを読んで、悟れなかったら、悟らない方が、いいんです。でも、「聞く耳のあるものは、聞きなさい。」ということになる。58：54.08

はい、次のたとえにいきましょう。44節、天の国は、畑に隠された宝のようなものです。「天の国は、畑に隠された宝だ！」と言っている。人は、その宝を見つけると、それを隠しておいて、大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買います。簡単なたとえですよ。畑に隠された宝だ。」でも、その畑に宝があると言っても、「どこに、どの場所に隠された」とは、言っていない。畑の中の宝を自分のものにしようと思ったら、その畑、全部を買うしかない。だから、神の国は、畑の中に隠された宝のようなもので、これだけが、神の国だと、名指しして、指定できるものじゃあない。

「神の国は、どこにあるの？」「この畑よ。」「そしたら、なに？土もある、泥もある、わらもある、虫もある、ミミズもある、もう、いろんなもんがいっぱいあるんじゃない。神の国って言ったって。・・・で、それを全部、自分のものに引き受けることになる。もう、雑多な生活上の邪魔なことがいっぱいあるわけよ。でも、その中に神の国があるんです。その生活、全部を自分は引き受ける、・・・(参加者の声「嫌だ〜」)「嫌だ〜、神の国だけでいい」、ですよ、でも、そういうことなんです。いい？皆さん、純粹主義になったら駄目よ。いい？クリスチャンは、大まか本質主義であり、純粹主義であり、「もう、綺麗なもの、ここだけでいいんだ」と、思うんです。「他のものは全部、嫌だ、私のところから、出て行って、」と、思うんです。そう、なりたいたいんだけど、そうじゃあないよ、家の事、仕事の事、子供の事、親のこと、親族の事、もう、あれもこれも、邪魔くさいことばっかりで、どこに、神の国なんだよ。」と、思うかもしれない。でも、そこに御国が、あると言っている。・・・「御国は死んでから行く天国だ」とか、言ってない。「御国は、イエスの両手の中に包まれた天国ですよ。」と、言ってない。神の国は、畑の中に隠されたようなものだ。」「それを、あなたは、全財産を払って、引き受ける覚悟があるのか」という、あなたの覚悟を、問うている。「これが無かったら、神の国なのに。」「あの人さえいなくなったら、神の国なのに。」とかね。そうじゃあないんです。1：03：03.38

その畑の中で、「じゃあ、あなたが何をするか、」と、いうことが、問われているんでしょ。「どう動くか」が、問われているんでしょ。その畑の中で言わば、というか、聖書のことばで言えば、「あなたに与えてくれた王権を、どう使うか」ということにかかっているんでしょ。持ち物全部を売り払って、その畑を買う、ね、だからね、クリスチャン精神というのは、「エスケープ精神」じゃあないんです。逃亡しようというね、現実から抜け出そう、逃亡しよう、その為に「神様、よろしく願います。」じゃあ、ないんです。ハイ。

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

45節また、天の国は、良い真珠を捜している商人のようなものです。はい、さっきは畑だったけれど、今度は、良い真珠を捜して走り回っている商人、今度は、人間ですよ。人物ですよ。さっき、畑に隠された宝、その宝があるから、畑を買ったその人と言ってもよいその人は、その畑を買ったけれど、その畑の中で、良い真珠を捜している商人のようなものですよと言っている。「俺は、畑を買ったから、よし、良かった、良かった。俺は宝持つてるぞ。」と言ったって、「どこにあるのよ。」と言われてたら、「この畑にあるのよ。」と、(笑)。「分かんないじゃない、畑のどこよ。どこにあんのよ。」「分かんない。見つけてないんだから。」って、ね、「でも、どこにあんのよ。」でもね、その雑多な生活の中で、煩わしい、生活の中で、真珠を見つけられるかってこと。そしてまた、連続で、買い取ることもできる。「これだったー！」っと、思うものは、また持ち物全部を売り払って、それを買います。心が、定まっているよね。この覚悟。この二つの人の心定まった、この覚悟が出来たというその心を持つ人は、これに共感できる。その覚悟がない人は、ここは、ずっと読んで、次に行きます。1:07:21.41

それで、次にまたたとえ、47節天の御国は、海におろしてある種類の魚を集める地引き網のようなものです。面白いよね、イエス様。「天の御国」は、って言って、いろんなものにたとえておられる。今度は、「地引き網」だって。48節 網がいっぱいになると岸に引き上げ、座り込んで、良いものは器に入れ、悪いものは捨てるのです。当たり前だよ。で、その次、49節この世の終わりにもそのようになります。はい、また、「この世の終わり」が来ました。これも先程の、「完成する」意味の言葉です。この世の成就の時にもそのようになります。「この世」という、この世に天の御国のからし種が蒔かれた。そのからし種が、初めに見えなかったけれど、段々、苗となり、大きくなり、成長していく、そして実がなっていくという、そういう「完成」の時に、そのようになります。御使いたちが来て、正しいものの中から悪いものをとり分け、50節 火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ぎしりするのです。「この選り分け、」ですよ。悪いものを選り分けた後で、天の御国が来ると、言ってるんじゃないですよ。天の御国は、良いものも悪いものも雑多に入っている地引網だと、言っている。「えー、御国にこんな人がいるんですか？」と、そう思うのは、完成して、成就して、その時のことだけを、御国だと思っているから。

御国は、海に「あらゆる魚を集めている地引網だ」と、言っている。イエス様がこう言われるのは、この当時の人たちも、もう自分たちの頭は、選別する、もうきっちり良いものと悪いものを分ける心で満ちているんですよ。そうでしょ。「もう、あの人はダメ、こっちだけが、我々だけが、神に喜ばれるものだ。」と、その道へ、その道へ、導こうとする。一見、非常に正しく、いい人たちに見える。でも神様の心は、地引網のようなものだ。」と言っている。1:10:48.20

その神のことばが、神様の気持ちが、どうやって、イエス様は分かったのか、分かるのか、それは、35節にある旧訳聖書の引用「世の初めから隠されていることどもを物語ろう」からわかる。私達、創世記をゆっくりやりましたけれど、あの学びの中で、神様が、天地を造られる前からの気持ちって、どんなんだったか。私達が、逸れることも墮落することもその前から、天地を造るその初めから、我々を共に置き、覚えて、神の懐に包んでいてくれたんです。だから、我々が、墮落したと言っても、神様は、その天の初めから、隠されていた神の心を、イエス様は、物語っておられる。それが判らなかつたら、イエス様のことばを、受け入れられません。

51節「あなたがたは、これらのことが、みな、分かりましたか。」彼らは、「はい」と、イエスに言った。52節そこで、イエスは言われた。「だから、天の御国の弟子となった学者はみな、自分の倉から、新しい物でも古い物でも取り出す一家の主人のようなものです。」どういうこと？新しいものと古いもの、そこには、時の概念がありますけれど、神の国に種が蒔かれて芽が出て、苗になり、穂になり実が付くまで、プロセスがあり、時がある

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

わけでしょ。新しいものもやって来る。まだまだ、もっともっと新しいものが、神が我々に成らせようとしておられる新しいレベルがやって来る。新しい啓示がやって来る。でも、古い過去通り過ぎて来たものも我々のものです。ですよね。なので、新しいものも語り、かつ、かつて通って来た古いものも取り出して、語ることができる。それも新しく。新しい物でも古い物でも取り出す、一家の主人のようなものです。1:14:40.30

だから、我々が聖書を読む時、30年、40年前は、こう解釈して読んできました。でも今の時になって、「あ、そう読んできたけど、そういう意味か、開かれて感動する時があるでしょ。じゃあ、古いものは間違っていたのか」というと、かつて、40年前、30年前、いえいえ、それはそれで、祝福された神のことばがやって来る。我々はそれを食べてやってきた。けど、今は今で、また神の新しいみことばの解き明かしがある。

赤ちゃんは、お母さんから離乳食を、こちょ、こちょっと、つぶしたものを与えられて、あれもいい物じゃあないですか。でも、いつまでもそうじゃあないよね。もっと固いものを、しっかり食べる時がやって来る。でも大きくなって、「もうそんな柔らかいつぶしたものなんか、いらねえよ。」って、言うかもしれないけど、同じ栄養が入っていれば、食べられないことはないでしょ。だから、そのように、古い物でも新しい物でも取り出して、語り、楽しみ、食することができる、——イエス様がそうだったわけです。古いトローラーからの時代のものをしっかりと、理解して、そして、新しい今の、この時の為に、進んだ今の時の為に、完成がまじかになった今の時の為に、これを「披露するんだ」と、「今は、それを食べる時なんだ」と、言っておられるわけです。それで、ここで、7つのイエス様のたとえ話をしっかりと、語っておられます。1:17:09.72

マルコの福音書の4章を開いてみて下さい。もう少し、たとえ話を見ていきます。マルコの4章、ここでもイエス様は、種まく人が、種まきに出かけたという、たとえ話をしておられますが、そこは、ちょっと飛ばします。

マルコ4:21節また言われた。「あかりを持って来るものは、升の下や燭台の下に置くためでしょうか。燭台の上に置くためではありませんか。22節隠れているのは、必ず、現れるためであり、おおい隠されているのは、明らかにされるためです。次、また来る。23節聞く耳のあるものは聞きなさい。また、来た！ここで、しっかりと、自分に聞く耳があるのか、何が言われているのか、思い巡らさなければ、ならない。一見、単純なことだけだね。

あかりを持って、升の下に置くものがあるか、明りをつけたら、明り台の上に置くんじゃないのか？隠れているのは、必ず現れるためであり、おおい隠されているのは、明らかにされるためです。神の国の奥義は、隠れている。からし種もパン種も目立たない。どこにあるのよと、尋ねて探し回らなければならないほど、目立たない。神の国の奥義は、隠れている。でも、隠すためにあるのではない。それは、後に時がたって、段々と、現れるためなんだ。「今、おおい隠されているように見えるけれど、それは、成長して、誰にもおおい隠せない者になるんだよ」と、こういう認識を、今日学んだ「神のことば」を持っていますか？ということ。」「あなたの心の中にみことばの種が蒔かれたならば、それは、時がたって必ずあなたにもわかるようになり、隠せないようになり、現れて来るものなんだよ。」と、言っている。1:21:17.89

そして、24節、「聞いていることによく注意なさい。」そういうふう書いてある。「あなたがたは、人に量っている量りで、自分にも量り与えられ、さらにその上に増し加えられます。25節持っている人は、さらに与えられ、持たない人は、持っているものにまでも取り上げられてしまいます。」厳しいんですね。そのへんで、シビアなことです。神のことばを聞くということは、学び与えられ、自分が持ったと思っても、それを悟らないでいると、それを取り去っていくものがあると、・・・さっき言ったように、「持ってけ、泥棒」のような自分になら

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

ないように、しっかり、自分の悟りにしていくまで、目を開いて、それを考え続けるということが、大切です。

聖書の中で神様は、・・・新約聖書の中で、イエス様は、「私たちに賛美しなさい、礼拝しなさい、祈りなさい」って、そんなに言っている？（笑）言っているように思うよね。賛美しなさい、褒めたたえなさい」と、詩編なんかで言っていますが、それはそれで、否定するつもりはないのだけれど、もっと、私たちに迫っているのは、「もっと、考えなさい」、言っているんです。「神のことばを受け取って、もっと自分の中で、考えろ」と。ところが、我々は、考えることが、面倒くさいのです。「答えだけくれや」って、そしたら、その通りするから。」って、右なら右、左なら左、言ってくれたら、その通りにしますから・・・と。1：25：28

でもね、神様は、それを「悟れ」と、「考えろ」と。「なんで？」創世記の学びから分かるのです。神の業、権能を共にやって欲しいから。神様の心で。あなたと共に。それをね、人間は、もう邪魔くさいから、「神様、全部やって頂戴」「全部、聖霊がやってくれ。私は、・・・」って。その言い方って、ほんと、気を付けた方がいい。

聖霊と内なる御霊と、自分の魂との関係性をしつこく言いましたよね。だから、それを思うと、聖霊は、あなたの魂と共に働きたいのです。あなたの魂は、小さく頭抱えてうずくまってしまおう。そうじゃあ、ないんですよ。

イエス様がね、「天の父が私に王権を与えられた」と、言っているんです。それは、過去に、パーンとあって、それが続いているという、ギリシャ語の言い方なのです。で、「天の父が、私に王権を与えられた。」「同じように私もあなたがたに、王権を与えます。」と、———これは、現在形。これから与え続けると。「貰った王権をあなたがたは使いなさいよ」という、そのスタイルなのです。ですから、その辺の違いを是非、考えてみてください。

マルコ4章26節また言われた。「神の国は、人が地に種を蒔くようなもので、27節夜は寝て、朝は起き、そうこうしているうちに、種は芽を出して育ちます。どのようにしてか、人は知りません。28節地は人手によらず実をならせるもので、初めに苗、次に穂、次に穂の中に実が入ります。29節実が熟すると、人はすぐにかまを入れます。収穫の時が来たからです。」30節また言われた。「神の御国は、どのようなものと言えましょう。何にたとえたらたら良いでしょう。31節それは、からし種のようなものです。・・・うん、そういうこと。これは、マタイにも共通していますけれど、「神の国」って、何なのよ。」ということ。「人が地に種を蒔くようなもので、夜から朝、そうして、種は芽を出して、どのようにどうなるかは、全部分かんないけど、苗、から穂、次に穂の中に実が入り、そして、収穫の時が来る。」と、言っている。1：28：16.47

「人が地に蒔いて収穫を目指すようなものが神の国ですよ。」と、言ってるわけです。と、いうことは、さっき言った「イエス様が与えた王権を収穫期になるまで、私達がどう使い続けるかということが、神の国の作業なんだよ。」と言っている。で、このマルコ4章では、たとえ話の中で、33節、「・・・彼らの聞く力に応じてみことばを話された。34節解き明かされた。」と、書いてある。

そして、その同じ日に、夕方になって、何が起こったかということ、3（5節～41節まで）「向こう岸を渡ろう」と言われた。群衆を後にして、船に乗った。ところが、激しい突風が起こり、波をかぶって水でいっぱいになった。———これ、実生活じゃあないですか。で、「イエス様、イエス様」と、そのとき、イエス様はともの方で枕をして眠っておれた。弟子たちは、イエスを起こして言った。「先生、私たちがおぼれて死にそうなのになんとも思わないのですか。」イエスは起き上がり、風をしっかりとつけた。「静まれ」と言った。大なぎになった。「どうして、怖がるのですか。信仰がないのは、どうしたことですか。」と言って、静めた。このたとえの後で、さっそく、日常生活の中の、その大問題の中の、危機的などころで、イエス様が、信仰を使ったんです。で、この時、イエス

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

様は、「お前たちには、できないんだろうな」と、言ったんじゃないかと、「なんで信仰がないんだ？あんなたちが、それをすべきでしょうが、・・・」と、言いたいわけなんですよ。

神の国は、こういうものです。我々の毎日の生活の中のすべての中に、「我々は、神の中を生きる」と、いう、覚悟が必要だし、それを、受け取ることなんです。楽しみになるくらい。

後半 0 : 01 : 19.95

前半は、マタイの 13 章とマルコの 4 章を通して、イエス様が語られた「神の国」というもののたとえを見てきました。その中に、我々が従来、考えていきやすい、神の国観というものがちょっと違うものに見えたと思います。それは、どうということかという、我々の「神の国観」というのは、キリストが、もう一度来られるというから、イエス様が来られた後に現れる「神の国」というふうに思うからですよ。

(ヨハネ 18 章 36 節) イエス様がピラトの前で、「私の国は、この世の者ではない。」と、言われた。私の国は、この世のものではないということは、「お前は、王なのか」、「この世の王なのか。」と、聞いたわけです。この世のものではないということは、天国の者だと、ポイント、考えやすいけれど、それは、政治的なユダヤを治めている支配者からそう問われたのだから、「この世のもの、そういうものではない」とイエス様は、言われたわけですよ。ところが、イエス様は、「神の国は、もうここに来ていとも言われた。」(ルカ 17 : 21)「神の国は、あなたがたのただなかにある」とも、言われた。(マタイ 12 : 28)「私が神の霊で、悪霊を追い出していくなれば、神の国は、ここにきているのだ。」じゃあ、「神の国」って、・・・だんだんわかってきますよね。3 : 59.96

この世の政治的な社会的なそのものではないけれど、その現実的のこの社会を、「神の国」という、深く、義であり、正であり、喜びと、愛に満ちた国に、変えていくことが出来る原動力、神がもたらそうとするその国を神の国と言っている。わたしたちは、この神様から離れていった世界、この世は、悪しきものの支配にありますよ。しかし、キリストと相互内在になった、そのときから、我々は、神の国の住人なのです。だから、この世の神の国、この悪の支配するこの国に我々は、遣わされている。この世に、神の国をもたらすための世の光として、地の塩として、我々は、ここにいるわけです。で、その神の国は、小さな種から、成長していく、実がなるまで成熟していく、プロセスなのだから、それぞれの神の国の今の現れは、みんなここにいる一人一人、違いますよ、違っていいんです。でも、そこで、皆さん一人一人が格闘している。信仰をどう使うか、それを学んで、一つ、一つ鍵を開け、ドアを開け、進んで行くという、それを我々は、祝福し合っているわけですよ。

あなたの代わりに私がやってあげるといふわけには、いかない。そうですよ。「あなたのために祈っています」と、いうけれど、「祈って下さい」と言われるけれど、それは、祝福しますよ。解き放ちますよ。同じ神の国の住人として。けれども、あなたが使う分は、あなたが使わなければならない。そこは、甘やかされるものでは、ありません。だけど、言いましたように、我々はどうしても、偶像崇拜土壌、根性というものがあって、パンパンと、お願いして、我々は逃げたいというエスケープの心情がありますよね。で、最後の最後、神様が裁きを下さす、最後の時だけはちゃんと見たいという、そこで、救われていたいという思い、「終末論」という概念が、私たちにガーっと、こう頭を規制していると思いませんか。これを言い出すとね、もうおっくうになるのですけれど、・・・どこまで言おうかなと、思うわけです。いつも、毎回、ここを通るたび、考えてしまいます。

皆さんはどの程度、「終末論」に関心がありますか？かつて、関心をもっていましたか？「かつて、終末論に関心がありました」という方、手を挙げて下さい。はい。「今まさに、関心があります」という方、ハイ。「さっば

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

りありません」という方は、どうですか？(笑)はい、やっぱり、似た経歴がある方は、・・・でしょうね。だから、いろいろですもんね。ですから、どこまで話していいものかと、私が悩むのも分かるでしょ。ねえ、だから、このセミナー本でも、そこそこで留めてあります。はい。9：13.46

けど、今日は、何回かこの本を読んだレベルよりも、ちょっとだけ、このところを突っ込んでみようかなとは、思っています。関心のある人もない人も、ちょっとあった人も、81 ページを開いてみて下さい。ここから読んでみますね。今迄の話を聞いて頂いて、イエス様のたとえ話を讀んだ後でだと分かって頂けると思うのですが、上から3つ目の段落のところから読みます。

ここで大切なラインを見つけます。御国への理解を妨げている誤解の一つは、「神の国を受け継ぐ」とこと「神に救われる」ことの混同にあるのです。I コリント 6 章 9.10 節やガラテヤ 5 章 19～21 節は不品行や汚れを行う人々が「救いを失う」と言っているのではなく、「御国を相続できない」と言っているのです。もしこのような肉の働きをした人がそれで救いを失うのであれば、救われる人は誰もいないでしょう。これらの人々はみな義とされている人たちなのです。この両者の混同は、「救い」しか聖書の主題はないとの考えから来る錯覚です。あまりにも神の国の存在が矮小化されていました。と、するならば、「一体神の国とは何なのだろう」ということになってきます。11：53.91

次に良い麦と毒麦のたとえでは、このたとえの初めから、終わりまでが、「御国」であることが見落とされがちです。収穫というこの世の終わり（厳密には“終わり”ではなく“完成”）だけが御国ではないのです。「人の子が種を蒔く。敵も種を蒔く。そして、芽が出る。毒麦の発見。成長。収穫。分別・・・」と、これらすべてが神の国なのです。御使いたちが不法を行う者やつまずきを与える者をどこから集めるかという、御国から集めていくのです。御国の現れを収穫期に限定してしまうのは、後にそれなりの再臨感が存在しているからでしょう。良い麦も毒麦も成長していくように、神の国も小さな種の状態から時間をかけて成長していくものなのです。マタイ 13：44～46 節までは、同じ意味のたとえが二つ並べられているようですが、そうではありません。これは、今実際にたとえ話を讀んでいきましたので、分かってもらえると思います。13：45.03

83 ページ、マルコ 4 章 26 節からのたとえも開いてみます。…というところも、先程、讀んでいきましたよね。その段落の下の方のアンダーラインを引いている箇所ですが、主と自分との間だけで密やかに始まった王権を行使し合う関係の中で、主との歩みが始まりました。やがてそれが、一人の「キリストの体」の働きとして、王権を縦横に使い切る関係へと完成されていくのです。我々が、どういう動きをするか、そこに今、焦点があるか。

ところが、この「神の国」観というものを、どうもたらしたいのか、あなたがどう受け取っているのか、描いている「終末」というものと、かわりがあるんです。——神の国の啓示が、まさに再臨の教えに、関係しているんです。(83 ページの真ん中辺りから 84 ページの 1 段まで) ——と、あります。

このように神の国のたとえ話を黙想して、より一層明らかになるのは、私たちの心に沁み込んでいる「キリストの再臨についての概念」でした。おおよそ次のようなものではなかったでしょうか。

旧約時代⇒初臨のキリスト⇒新約時代⇒キリストの空中再臨（軽拳）⇒患難時代⇒キリストの地上再臨⇒千年王国時代⇒永遠の裁き⇒新天新地——こういった構図で再臨を受け取っている方が多いと思います。

ただし、軽拳の時期については、「患難時代前期」「中期」「患難後」の3つの考えに分かれています。これは二十世紀初めにアメリカのテキサス州のスコフィールド牧師が聖書の預言のみことばを時代区分に従って配分した

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

聖書研究を発表したことに始まります。そしてその教えが、アメリカ全土、及びヨーロッパに広がり、定着した解釈となったのです。16：43.19

“スコフィールド牧師“が、うんぬんと、私がわざわざ何でここまで書いたかという、「わざわざここまで」と言うのは、ちょっと関心のある人だったら、ここからたどって、調べるだろうという期待があるのです。「私は、もうそれ以上は言わないよ。でも、調べたい人はどうぞ」と言いたいところが、見え隠れしているんです。(笑)

(84 ページ 2 段目～85 ページ 段目迄) 聖書の再臨に関する記述は、複雑で難解であるため、それを聖書から想定した各時代別に色分けする手法は、画期的な聖書研究法として、世界に受け入れられたのでした。日本の教会も欧米の神学が土台となっていますので、リベラル系の教会以外はおおよそ影響を受けているのです。

しながら現代では、生ける神のみことばを各々一時代に限定し、押し込めることが、分かりやすいとはいえ、神のことばを浅薄なものにしている観が拭えず、疑問の声が大きくなってきているのです。私たちが教えられてきた再臨に関する常識ともされてきた理解は、わずか数十年の間もてはやされただけの流行のようなものに半ばなりつつあるのです。けれども、過去のことでなく、自分たちの未来のいのちが関わっている再臨の教えは、真面目なクリスチャンにとって、重大な関心事であったわけで、一度、心深く受け入れた理解は、その後回復されていく真理を消化しようとするときに重い足かせとなるのです。

とはいえ、上に挙げた再臨の教えが、この聖霊の回復の時代にあって足かせになっていると感じる人はまだまだ少ないのです。これまでのような真理の回復状況であれば、まだ、大丈夫でしょう。問題なのは、これからです。神の国の啓示は、正面から再臨の教えに関係しますから、もし、あなたが真剣に神の国に渴くなら、決して目をつむって過ぎることは出来なideしょう。この一連の集会においても再臨に関心する啓示を何度も取り扱うこととなりますので、今日は基本的なラインを確認することにとどめ、今後ゆっくり時間をかけて黙想していきたいと思います。19：20.57

はい、ですから、ある方々は、ちょっと、ショックかもしれません。けど、どうぞ、目を開いて受け入れていくことを「すぐ、受け入れましょう」と言ってるのではなく、「それをまず、聞きましょう」と言っています。で、ここで、“再臨に使われている 5 つの言葉”というのが、次にありますけれど、今日は、ここに入りません。「もう、いっぱい聖書を読んで、頭の中、入りません。」と、言いたいところでしょ。

なので、ここで言ってることを大まかに、話しますと、知っている方もいらっしゃると思いますが、「時代区分」というものをご存じですよね。はい、じゃあ、説明して頂きましょうか。(笑) あのね、「創世記から黙示録までを、それぞれの時代に分けて考える。」という、「神様は、そういう一つ、一つの時代に分けて、取り扱ったんだよ」という教えが、あるんです。(笑) ——そう、つまんなさそうな顔をしないでくださいよ。(笑) ——ちょっと、簡単に言いますとね、旧約と新約の時代というのは、それは、誰でもわかるよね。そして、新約の時代の後に神の国の時代いう、想定、3つ。という大まかな3つの時代があります。「千年王国という時代」も最後の「神の国の時代」もそこに入っています。ある程度、聖書を読んでいっていると、時代が変わっていつていit言うのは、分かりますよね。そういう意味で、創世記の天地創造からエデン、エデンを出てからのノアからバベル、バベルからアブラハム、アブラハムからモーセ、モーセから・・・、ここまでは、律法の時代なので、次はキリストじゃあない？キリストから再臨、これで7区分。

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

だから、アダムの創造からエデンから追い出されるまでが、無垢の時代、まだ神様は何にも難しいことは言っていない。最も永く、アダムとエバが神とともに暮らしたという時代。そして、アダムとエバが神に背いてから後ノアの洪水迄、ノアの良心に任せた、神様がそう取り扱った良心の時代。それから、ノアが箱舟を出てからバベルの塔までが、人間がどうやってこれから世界を生きて行くかを見られた人の統治の時代。次にバベルからアブラハムの召しからシナイ山で律法が与えられる以前までの族長に繰り返された約束の時代。それから、モーセに律法が与えられてからバプテスマのヨハネの務めまでが、律法の時代。それから、キリストの再臨までが、恵みの時代、キリストの2度目の到来からサタンが火の池の中に投げ込まれるまでが王国の時代。

といいふうに、ここ、正確じゃあないけど、時代区分に分けるのよ。そして、ここで言われている神様のことは、ここで通じるのだと。ここで言われたことは、後、通じないのだと、言われている聖書のことばをきっちり色分けして、時代ごとに分けちゃう。だから、「今は、キリストから再臨の恵みの時代だから、これに当てはめられる聖書のことばがあるのだ。」「こっちのものをもう持って来たって、この時代だけが、その時代に当てはまるのだ」というふうにするわけです。

それで、スコフィールドさんの時代区分に分けた聖書というのは、この分けた時代ごとに、聖書を色分けしてあるんです。「ここ、旧約聖書でもこの時代のことを言っているのだよね」とか、全部分かるように、色分けしてあるのです。——だから、「色を見たら、この時代のことを言っている、今の時代に当てはまらないよね、これって」ということになるわけなのです。だから、めっちゃ、分かりやすい。その聖書が売れに売れて、もう爆発的な大ヒットになったわけなのです。アメリカで。26：30.32

だから、そう思えば、分かりにくい聖書のことばの全部は、これにみんな区分けしてあるから、読みやすいわけですよ。「あ、そうなんだ、そうなんだ、そこね、そこね。」と言って、「これって、今の時代のことを言っているのね」と言って、それを全部、当てはめて、——恵みの時代、教会時代のことば、ここで当てはめられることばは、新約聖書の中の使徒たちの書簡の中に主にあるわけで、その中でも、昔の事を言っているところもいっぱいあるわけです。なので、初めから色分けしてあるから、解釈しやすいので、そういう良さがあって、もう、「時代区分の解釈」が、ドバーっと、入っていったんです。27：36.30

参加者：「あの一、いいですか。」「そんなに神のことば、聖書ってというのは、色分け出来るものなんですか？」

「ここが緑、ここが赤です。次、ここ黄色とか、そんなに分けられるものとは、ちょっと思えないんですけど、・・・その辺は、どうなんですか。」

先生：「ですよ」

参加者：「絶対重なっている。時代の重なりは、絶対あると思うし、そこはちょっと、理解できません。」

先生：「はい、今笑って、口を押えておられる方は、物凄く同感されているみたいですね。」そういう声が、当然あるんです。勿論。でも、これはこれで、広く受け入れられたという事実は、そうなんです。確かにね。

それで、そのことを、今聞いただけでもわかるけど、私たちは、読んでいく時に、こっから、こう読んでいって、今、私たちは、ここ（恵みの時代）にいるわけじゃあないですか。キリストから再臨までの教会時代にあって、「じゃあ、ここだけの聖書でいいじゃあないの?」「そうしたらね、こんな所から、読む必要ないじゃん。」って、いうことになる。で、こっからずーっと、読んでいって、それぞれの中で、神が語ったっておられ、今生きる私たちに深い真理を教えてくれているというのを、受け取って来たクリスチャンたちにとっては、「何でよ。

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

もうこれ、昔のことで、そんなにもう価値がないの？」というふうに思ってしまう。

参加者：「色分けしている、それを信じている人たちは、そういうふうに考えているってことですか？」

先生：「そうですよ。」

参加者：「今は、キリストと再臨のところにいるから、「もう過去だよね。」というふうな理解を持っている人たちがいるってということなんですね。」 30：11.30

先生：字義通りに、「神が男と女を造った。そして、女が蛇に騙された」という、そのことは、もう過去の事ではないですか。そのことによって、人類に罪が入ったんだと、それだけが分かればいいんです。」それで、今、我々はなんでこうなのかという、過去の経過が判ればいいんです。その中に、我々が、今、生きる王権を使うヒントは、もう読み取られない。それだけでいいと。参加者：(笑)

それで、我々は、これまでの経過を、過去の人が経過をたどって、神様がここまで、持ち運んだ「今日の使命」を果たすのみなんだと、いうことなんです。で、もう直ぐ、終わりが来るんだと。この終わりのために何をすべきか。この終わりに我々が生き残れるか、本当に、この終わりに、さばきに遭わずに立っておられるか、それが、重要なことです。と、言っている。そして、神の国はどこにあるか、初めあったけれど、消えました。それを回復します。最後に悪いものを束ねて、燃やします。そして、新しい時代が来ますという、単純明快なメッセージになります。

参加者：これまでの神との約束は継続という考えで、OK なんですか？

先生：勿論、その時代、時々で約束された契約は、ありますよね。それぞれの、ここの契約を守って築いてきた結果、今、我々は、恵みの時代を生きているんだと、それは、そのまま受け取りますよ。大切なことだから、そうでなかったら今がないから・・・。

だから、「神の国って、なあに？」というところのもともとの概念が、捉え方が違うわけです。このキングダムセミナーで、キングダム、神の国、と、いうものを問い直しているわけです。そこには、「救い」というものと、「神の国に生きる」ということ、物凄く濃厚なメッセージが、我々の生活の中にもたらされているんだといううことを、掘り起こして、我々は、手にしようとしている。神の目的は、何なのかということ、も一度、新しい見方で、問い直していこうとしているわけです。

それで、この時代区分の中で、・・・これね、区分する人によって、いろんな区分があって、もっとあるんです。12の区分に分けるんだとかいう人もいて、そういう人もありますので、・・・大まかに3つとか、そうすると、単純でしょ。クリスチャンになりたての人に、「こうなのよ」と、表に書いて教えてあげたら、「えー?!」と、それで、入っていくんです。(笑)

これちょっとね、あと、30分しかないんでね・・・参加者：「この話、30分では終わらないですね。」(笑)

先生：早く終わって欲しい・・・ですか？(笑)

参加者：いえいえ、突っ込む要素が満載なんで・・・。(笑)

先生：いやいや、これを突っ込むというんじゃなくて、広く歴史を見て、バックボーンをちょっと、皆さんにもお知らせしたいということなんです。 0：35：14.19

それは、なにかというと、これね、…驚かないでくださいね。あんまり教会で、聞いたことがないと思います。大体、言わないから。神学校でもあんまり言わないと思います。だから牧師さんたちもあんまり、知らないかも。皆さんも、この2000年間の教会の歴史というのを振り返って勉強したことって、そんなにないよね。

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

実は、クリスチャンの信仰がローマの皇帝に認められて、国教となりました。で、その国教、キリスト教という宗教観を通して、民衆に信仰を持たせた方が、治める方にしたら、治めやすいわけでしょ。だから、「一つの宗教に統一して、治めるんだ」と言って、ローマカトリック教会というのが生まれたんです。

それまでは、どれだけクリスチャンが迫害されてきたか、どれだけ、殺されてきたか、という、むごたらしい歴史が、300年近く続いたわけよ。ところが、国教にされたたたん、国の宗教になるものだから、大手を振って、「私はクリスチャンです」と言えるようになったんです。そして、何もかも、教会が今まで、馬鹿にされ、しいたげられ犯罪人として追っかけまわされていた、教会のリーダーたちが、祭り上げられて、「お前たち、もっと、あれやれ、これやれ」と、建物を与えられて、造ってもらって、教区という、人々を支配する区分けをされて、大きく転換していくわけです。その中で、ローマカトリック教会というのが出来て、国教にされたということが、「おおー、これぞ、神の国だ。」「この世の中は、キリストを中心の神の国が来るんだ、来たんだ！」と、思ったひと時があったわけでしょう。

けれど、それは、長く続かなかった。それは、ローマカトリック教会の墮落、指導者たちの墮落、政治化、というものが、・・・詳しく言わなくても分かりますよね。で、どんどん民衆を支配する道具として、宗教が、使われていくわけじゃない。そして、ずーっと、暗黒の千年間といわれる中世の時代を迎えていくわけじゃあない。で、この時代の生きにくさって言うのは、・・・ひも解いて見なさいよ。絶対、もう生きたくない。そんな中で生活したくない。この時代で良かったと、誰もが思いますよ。

それで、1500年位近く、正確には、もうちょっと前、1400年くらい前なのだけど、大きな時代の変化が起こったわけでしょう。もう、とどのつまり、神殿を建てるためのお金がないから、ローマの教会の青年に「この札を買えば、あんたの罪は許されるから買いなさい。教えだ」と言って、何にも聖書のことばを教えてもらっていない、教えられていない民衆は、・・・お金のある人は、我こそってその「免罪符」を買い求めたという時代です。

で、そんな時に、もう有名な話ですけど、——マルチン・ルッターより前、100年前からいたんですよ、そんな人が何人も。でも、一番強烈な、根性があったというか、神に召されたということで、——マルチン・ルッターが、「95か条の質問状」というのを門に張り付けて抗議した。

で、その「ルッターの宗教改革」のこの抗議の中心の1点は、何なのだと思いますか？抗議の中心の1点は、ヨハネの手紙の中にある「反キリスト」って、ことばです。一般民衆は、聖書なんか読んだことがない。宗労者だったルッターだったからこそ読めたヨハネの手紙の中に、「反キリスト」は、“後の世に”、いやいや、ヨハネが“今もう、反キリストは、現れている”と、書いている。あの時代からと言ったのです。「じゃあ、あの時代から、「反キリスト」って何なのよ。」と、しみじみ読んで、黙示録までいった時に、「反キリストは、ローマカトリックだった。」「あの教皇が、バビロンの王、反キリストだ。それを確信した。」と言って、それを、ぶつけたわけなんです。42:02.16

それで、ルッターが受け入れられている民衆に、「そうだ、そうだ」といって、聖書を読んだことのない人でも、「そうだ、そうだ、その通りだ！」と言って、言い始めたのはなぜかという、お金、賄賂で動く司祭たち、教会の指導者たちが、わんさか、うじょうじよいて、その地域を支配していたわけじゃあないですか。もう、腹の中は、煮えくり返っていて、「あんな奴が、何が神様の僕だ！」という思いが、蔓延している中で、ルッターが、そういうことをやったものだから、「その通りだ！」「ルッターよ、もっとやれ！」と、いって、ルッターの説教を

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

聞きに集まって来た。で、あっという間に、ヨーロッパのあちこちに“ルッター派”という、クリスチャンの集まりが出来て来た、ということなのです。43：00.59

だから、その当時のローマカトリックにしたら、全く、天から火が降ったように、大騒動なんですよ。「なんじゃあ、これは——、・・・」と言って、ローマカトリックの方から見れば、「ルッターと、それに従う、聞き耳立てて応援する人達こそが、「反キリストだ！」と言って、そうやって、トリエント公会議とか、いろんな会議を招集して、その引き締めにかかったのです。それで、その中で、ローマカトリック教会の中で、「反宗教改革運動」というのを初めた。当然でしょう。このルッターの改革が世界中に及ばないように、「反宗教改革運動」というのを、やったわけです。44：10.28

で、その「反宗教改革運動」というのは、完全に政治的に経済的に組織的に、宗教的に神学的に、もう、綿密に計画を立てた「ルッター派、撲滅運動」だったのです。熾烈を極めて、・・・とうとう「宗教改革戦争」という形になって、「ルッター派を殺しに行くんだ」と言って、これが、「十字軍」だというふうにまでなって、凄惨、本物の何十年戦争になっていくわけです。だからね、この「宗教改革戦争」というものを、あまり我々は、世界史の中で、学校で習わなかったでしょ。高校で習った？

参加者：選択教科だったので、それを選択しなかったの、習わなかったです。

先生：ですよ。だから、あんまり、知られていない。だけど、まさに、過酷な歴史だったわけです。

それで、その中で、カトリック教会がとった方策が、今、言いましたように、「政治的に締め付ける」、ルッター派を受け入れた「領主、あるいは地主、あるいは地方の有力者を締め上げていく。」ということが行われていきました。当然そうでしょ。で、経済的にも干上がらせて、そして、宗教的にも破門していく。一切、これまでの宗教的恩恵を遮断していくのだ」と言って、———当時の人からそれされたら、それ、たまらないでしょう。で、これこそ、あんまり言われてないのだけれど、神学的に反論していくという、それを、ローマの教会は、ルッター派のローマ教会に対する「反キリスト論」というものを、いかに交わしていくかが、大きなテーマだったんです。46：44.11

ルッターが、言うのは、「今いるローマの教会の、あの教皇と主教たちが、反キリスト、バビロンだ」と主張した。だから、「我が民よ、バビロンから離れよ。」と、呼びかけたわけです。だから、みんな「出よう、出よう、もう、おさらばだ」と言って、カトリック教会を慌てて、出て行った。

カトリックの教皇は、「反キリストではない」ということを、言わなければいけない、証明しなければいけない。ルッターに負けないくらいそれを、聖書から証明しないと行けないということに迫られるわけです。だから、そこにカトリックの神学者を集めて、「このルッターの神学に対して、反論する道を研究せよ。」と行って、研究させたわけです。47：39.28

その研究の中で、「反キリストとは、何なんだ？」ということ、呼びかけた時、何人も司教や神学者がいる中で、何人かが、まだ、国教でない時代、ローマのネロを始めとして、物凄く迫害してきたわけですよ。で、そういう迫害してきた、過去の国王たち、そして、その国王に認められたいからと言って、クリスチャンたちを迫害して、殺して、締め上げていく將軍たちがいたわけです。その將軍たちというのが、褒められて、出世して、という時だった。だから、もう、我こそは、と言って、クリスチャン狩りをしていくわけです。そういう人たちが、何人もいたわけ。で、「それが、あの黙示録で言う主を滅ぼす獣たちなんだ」と、「あいつらが獣たちだった

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

のだ」と、「その時の王たちが、反キリストだったんだ」と、「ローマにできた教会は、そういう者たちを無くして、救ったのだ」と、「ああ、反キリストというのは、過去のあれだったんだよ」と、いう解釈をして回ったんです。49：38.41

そうしたら、「悪いのは、そんな昔の將軍たちだ」って、いうけれど、じゃあ、今、ルッターが言う、民衆が言う、ローマカトリック、今のあんたたちはどうなんだ！と、いうことじゃあないですか。「今のあんたたちは、何しているんだよ」という、この追求から逃れないといけない。ですよ。だけど、ローマ教会は、「私たちは、一生懸命に頑張っている」と、——何を頑張っているかという、ルター派のそれが出来てから、物凄く教会の肅清が始まったんです。反宗教改革運動で、自分達を立て直すために、賄賂を使う者たちを肅清し、教会の聖化というか、一掃していくわけですよ。その悪いものに対して、力を入れて、「我々は、悪い所は、あったけれど、今はもう、悔い改めて、世界の教会のために、救いの為に、我々は立っているのだ」と、——主張したわけなんです。50：58.46

でも、その被害に遭った民衆はの疑念は、解けない。くすぶっているわけです。じゃあ、どうしたら、いいのかという時に、また、神学者たちを集めたわけです。まだまだこうだから、どうしたらいいか、考えよ」と言って、「聖書から、答えを出せ。」と言って、で、その時に集められたのが、「イエズス会」。「イエズス会」って、皆さん、宣教師がバリバリやっていくイメージが多いかもしれませんが、物凄く、頭の良い学者集団だったんです。その時、イエズス会のある一人が研究して発表したのが、「反キリストは、過去というより、今というより、これから先、未来に来るんだ」と、「反キリストは、昔の將軍たちどころじゃ、ないんだ。今のローマカトリックだ、なんだかんだと、お前たちはいうけれど、それじゃあないんだ」と、「もっと、これから先、過酷な反キリストが顕れて、患難があるんだ。それに、我々は、備えるべきなんだ」と。52：55.12

この「過去の將軍たち」といって、指示した初めの解釈を、「反キリストの過去主義」、マルチン・ルッターがいう、「今の教皇だ」と、いうのを「反キリストの現代主義」と言われ、最後のイエズス会が言った、「これから未来に、世の終わり」に来るんだよと言ったのが、「反キリストの未来主義」と、言って、この3つの「反キリスト解釈」が、1500年過ぎ、宗教改革が起こって、1600年、1700年と、ずーっと、くすぶって来たんです。

そして、1800年を過ぎた頃だったと思うけど、「カトリック使徒教会」というのがあるんですけど、聞いたことありますか？ないかな。「使徒」というのは、あの「使徒」だよ。「カトリック使徒教会」というのがあって、その中の「エドワード・アービン」という名だったと記憶していますけれど、カトリック使徒教会のエドワード・アービンが書いた本がいっぱい出回って、そのエドワード・アービングが、この「時代区分」というのを考え出した、言いましたんです。それと同時に、聖霊派だった、カリスマだった彼は、「使徒、預言者、伝道者、牧師、教師、っていうのが、回復するぞ」と、言っていたんです。この頃からなんです。今のペンテコステ派が言うよりずっと前に言っていたんです。

このカトリック使徒教会のエドワード・アービンを紹介して、研究した本が日本語に訳されたんです。当時、私が神学校に言ってる頃だったんですけど、私もそれを読んで、もの凄く興奮しましたよ。「えー、そうだったのか」と言って、当時カリスマの教会に行って、バリバリでしたから、私も「よっしゃ、これは凄いわー。使徒、預言者、伝道者、牧師、教師、っていうのが、回復するぞ」と、思っていました。

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

ところが、アービンのカトリック使徒教会は、急激に増えて、その「終末論」というのと、「教会の再興のメッセージ」が、大きくなっていったんだけど、途中で、挫折します。なぜかという、当時1800年の末、1900年になる前に恐らく、これは、ハッキリ覚えてないんですけど、そうだったと思う。これ、私の推測です。確かその頃、「再臨が来る」と、言っていたと思うんですけど・・・、で、そこに、「カトリックの中に12人の使徒が立てられて、この12人は、キリストの再臨までは死なない」と、宣言されていたんです。それで、使徒たちが、キリストの再臨に注目するのだけれど、キリストの再臨が、1800年の終わりに無かったんです。無かったままに、12人みんなが、老衰で死んでしまう。で、それでもって、「なんだよ」ということで、カトリック使徒教会は、分裂して、地域の運動に消えていってしまったことが、あったんです。

それで、その後で、その教えを大切に受け取って、この聖書区分をもう一回、整理して、明らかにして、発表していくというのが、1990年代に続くわけです。そしてそれが、ずーっと、受け継がれていって、1900年の終わりから20世紀初めに、しっかりと「聖書区分理解」というのが、脈々と、プロテスタントの教会の中で、1900年以降の聖霊の活発化の中で、福音派とペンテコステ派に広がっていきました。59:24

そんな中で、アメリカで、このスコフィールドさんが、これをハッキリ色分けしたことで、もう、これは、「画期的な聖書解釈だ」と言って、継承していくんです。ここまで、スコフィールドさんが、どうやった、ああやった、もう一人前の人が、どうやったこうやったという、ここまでは、プロテスタントの普通の教会史の中に出てきます。でも、それ以前の区分解釈の起こりがどこから来たのか、ということ、あまり、理解されていません。

そこで、84ページの下から、2つ目の段落のところを読みます。しかしながら、現代では、生ける神のみことばを各々一時代に限定し押し込めることが、分かりやすいとはいえ、神のことばを浅博なものにしている観が拭えず、疑問の声が大きくなってきているのです。私たちが教えられてきた再臨に関する常識ともされてきた理解は、わずか数十年の間もてはやされただけの流行のようなものに半ばなりつつあるのです。←このね、あんまり、関心持って聞いてこなかったけれど、なんか、聞かされてきたという、この流れに、どうしても、影響されてしまう。充分、聖書を読んで、こういう区分理解に私はなりたいたいと思う人は、なったらいいと思う。けど、創世記から、神が生けるみことばとして、言わんとしておられる「みことばに謙虚に耳を傾けて」、創世記の初めから、ずっと、聞き耳を立てて、「今を生きる私たち」も、その中で、「神が語られている生ける神のことば」として、「今、受け止める」。聖霊によって、「今味付けられている」。聖霊によって、「今解き放される神の奥義を受けるべき」。「栄養素」はいっぱいある。山ほどあるんです。だから、「聖書を読み込んで」、その中で、聖霊が語ってきたこと、今も我々が、「聖霊の前に立つ」ということは、どういうことかを悟って欲しい。1:01:43.27

「ベレシート、バラ、エロヒム。」神が語り始めたことを心に染み渡るように、シャワーのように受けて行く時に、我々は、育っていくんです。聞き慣れていっちゃうけれど、幼い、よちよちの時に、お母さんから、言われた注意、あるいは、かけられた言葉、父親に抱っこされてかけられる言葉、——これは、我々、大人になって、「ああ、あんなの、昔の話だ。」「お父さん、お母さんの関係は、もうないんだ」と、あの頃の記憶なんて、もう、意味ないんだと、そう思いますか？——その記憶があるから、今度また、娘、息子、孫にまで、語られるでしょう。同じようにね。神様は、人類を造られた時から、準備に取り掛かれた。我々は、意識を持っていなかったかもしれないけれど、神様の方は、創造の初めから、あなたを持っておられた。そこに置いておられた。神は、そう言っておられる以上、私たちがね、それを簡単に切り捨てるわけにいかない。ゆっくり、その時のことを思い出し、その幼い時に語られた、父のことばをいつも胸に、抱えながら、「今、生きて使うべき王権を選び

⑭東京キングダムセミナー2023/11/11

取り」、進んで行く時も「材料にする」、「エネルギーにする」。そういうことを「しっかりと、思い巡らして」、生きたいなと思います。

これを録音で聞いたり、人伝手に聞いたりする人がいるかもしれません。どうぞ、ちょこっとだけ聞いて、ショックを受けないようにしてくださいませ。時間が迫っていますが・・・、何か質問はありますか？

参加者：自分がよちよち歩きの赤ちゃんの時、救われて、・・・ってことでいいんでしょうか？

先生：そうですよ。クリスチャンとして、幼い時に、・・・というふうに思いますよ。

はい、よろしいですか？またいろいろと、込み入った声があると思いますから、また、聞かせて下さいませ。